

令和3年度第3回人材育成のための意見交換会 議事要旨

1 開催日時

令和4年3月15日（火） 午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14階 第3会議室

3 出席者等

(1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者

深澤 悦子【座長】	(広島都市学園大学子ども教育学部子ども教育学科 准教授)
伊藤 唯道	(広島市私立保育協会 副理事長)
清川 里佳	(広島市私立幼稚園協会 副理事長)
松川 美香	(広島市保育園長会 代表)
野上 朋子	(広島市立幼稚園長会 副会長)

(2) 事務局（広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局）

保育企画課	課長補佐
保育指導課	主幹
教育企画課	課長補佐、主査、指導主事、指導主事、主事
指導第一課	主任指導主事
教育センター	主任指導主事

4 議題（公開）

各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力

5 傍聴人の人数

0名

6 意見交換会資料名

- (1) 「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」について
- (2) 人材育成の基本的な考え方に基づく研修体系の構築に向けた検討について

7 出席者の発言要旨

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問があった。

※ ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

(1) 資料1について

- 新人・若手という表現について検討したい。発展期以降の職員は新人・若手だけを育てるのではなく、中堅を含めて全体の成長を支援することが分かるとうい。また、新人の職員といっても年齢層に幅があるのでより馴染む表現はないだろうか。
- 私立保育園では、若くして主任になり年配の職員を支えていることも多く、縦の関係をあまり感じないようにするとよいため、全ての職員やあらゆる職員などの表現ではいかがだろうか。

- 新人を支えなければならないという決めつけにつながらないようにしたい。全体で支え合うイメージになるとよい
- 各キャリアステージにおいて必要となる力の中では、他の職員という表現を使っている部分もある。他の職員ではどうだろうか。
- 他の職員という表現は馴染むように思う。リーダーは、他の職員を支えることがわかる。新人や若手を支えるのではなく、他の職員を支える力が重要である。
- 今の意見をまとめると、新人・若手に変わる表現として、他の職員や全ての職員、あらゆる職員という3つの表現があった。事務局はこれを参考にして、検討していただきたい。また、最終的な修正は事務局に一任することとしたい。

(2) 資料2について

- 広島市保育連盟が実施する研修は、広島市から委託を受けているため、研修参加者を拡大することについてこども未来局に確認する必要がある。
私立保育協会が独自に実施している研修については、広く公開することが可能である。しかし、会員から会費を集めているため、非会員も無償にするのかなどについて考えていく必要がある。例えば、会員は無償、非会員は有料にするというやり方も考えられる。
- 参加人数、研修費用、参加料の有無などについて考えていかななくてはならない。
- 広島市保育連盟の研修については、参集及びオンライン、YouTube 配信を行っている。
オンラインであれば、各園で参加しやすいという利点があるが、オンライン環境が整っていない園等の参加が難しいといった課題もある。
- 委託研修なので公開について確認が必要だが、例えば、研修を実施した後に研修内容を広島市公式 YouTube に掲載し、各団体や園等の視聴が可能になれば、より広く参加していただくことができるのではないだろうか。
- 次年度は、参加人数の問題も含めて研修の形態とその参加方法をどうしていくのかということについて検討を進めていくとよい。
- 今年度はコロナ禍のため、広島市幼稚園教諭・保育士等新規採用者合同研修会は動画配信としたが、当初は参集する方向で計画していた。その際、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1回の開催を複数の日数に分けて参加の希望を募った。そうすると、昨年度までに比べて申し込み者数が増加した。新規採用者が複数勤務している園等においては、開催が1日のみであれば、職員を研修に参加させることが難しいといったことがある。そういったことを踏まえて、開催方法も検討していきたい。
- 研修体系を構築した後は、乳幼児教育保育支援センターが母体となり、研修全般について機能するイメージなのだろうか。

- これについては、どの団体が何を実施するのかといったことも含め、広く考えることから始めていきたい。現段階では、必ずしも乳幼児教育保育支援センターで実施することを想定していない。
また、一度にあらゆることを開始して課題が出てきた場合を考慮して、どの団体においても負担が大きくなるよう、段階的に取組を進めていきたい。
来年度は、例えば、基礎形成期の部分的な内容について、合同実施が可能な研修から検討を始めるというような視点で議論を進めていきたい。段階的に検討を進める中で、可能な取組を徐々に広げていくイメージを持っている。
- 教育センターの研修は、公開可能なのか。
- 教育センターが実施する幼稚園主任研修は、現在も私立・公立の幼稚園・保育園の職員も対象に公開している。内容により公開可能な研修は検討していきたい。
- 私立幼稚園協会の研修には、市立幼稚園の職員も参加しているものがある。しかし、現段階においては研修の形態や規模などにより、広島市の全ての幼稚園教諭・保育士に広く公開する研修は難しい。
- 自園も今年度の私立幼稚園協会の研修に参加させていただいた。招聘している講師や研修内容はとても良い内容であった。このような研修をより多くの幼稚園教諭・保育士等が受けられるとよい。
- 将来的には、広島市の各団体の強みを生かし団体間で研修をフォローし合えるような体制になることが望ましい。
- 例えば、各団体が研修の案内を同じフォーマットで出し、「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」のどの部分に当たる研修なのかを揃えることができるかといえるのではないかと。
- 各団体に対する研修の案内を揃え共通にすると、現場の幼稚園教諭・保育士等にとって分かりやすくなる。
- 市立幼稚園は、職員の人数が少なくなり新規採用者も数人であることから、職員が意見交換することや悩みを共有することが難しくなっており、幼稚園教諭の視野が狭くなるのではないかと危惧している。新規採用者から園長に至るまでより広い視野を持つことができるよう、各団体が協力して研修できるようにするとありがたい。
- 全国的にも各自治体の公立幼稚園の数は少なくなっている。また、各団体独自で研修していくことが難しい時代になっており、各団体が共に研修を実施することは重要になる。幼稚園教諭・保育士が必要な研修を受けられない状況にならないようにしないといけない。
こうしたことを含めて研修のレイアウト作りを進める必要がある。その際に、目指す子ども像を明確にすることも重要になる。
- 運営上の様々な課題はあるが、次年度は可能な取組を進め、少しでも各団体が一緒に研修を実施できるとよい。
実際に参集する難しさがあるため、動画の編集といった作業どこが担うのかといった課題はあるが、広島市の公式 YouTube チャンネルを利用して、いつで

も自分に必要な研修を受けられるようにしていくことなどから始められないだろうか。

- 広島市保育連盟では録画した研修のうち、グループワークの部分を削除して配信している。これならば負担が少ない。
- 新たに研修を計画し、撮影するのは大変なので、今あるもののうち、可能なものを一般公開するとよい。それをしつつ、研修体系を固める取組を進めていくとよいのではないだろうか。
- 広島市保育連盟や私立保育協会が実施している広島市の委託研修の公開について、こども未来局はどう考えるか。
- 前向きに検討していきたい。
- 保育指導課でもオンラインの研修を実施しているが、それも公開していただけるとよいのではないだろうか。
- 保育指導課主催の研修には、YouTubeで配信するものやオンラインにより実施するものもある。これらについては、公立幼稚園・私立幼稚園にも見ていただけよう検討したい。
一方でグループワークや対面による研修も大切にしたいので、公開する内容は精査していきたい。
- 先程と同じように、YouTubeで配信するにしても各団体に研修の案内を同じフォーマットで出し、「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」のどの部分に当たる研修なのかを揃えるとよい。
- 資料1「各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力」については、乳幼児教育保育支援センターのセンターだよりで紹介するなど、広く発信したいので、各団体においても周知についてご協力をお願いしたい。
- 資料2の3(2)にある、類似した研修の合同実施については、各団体が集まり協議して実施していくのか。
- 具体的な手法については今後検討していきたい。
例えば、研修を新たに設けたいが、団体が単独で実施することは人員やコストが課題となり難しい場合に、同じ課題認識をもつ他の団体と協力して実施することや、複数の団体で内容が重複している研修を一つにまとめた場合に余力ができることも考えられるため、その余力部分で新たな研修を行うことなどが考えられる。そのような大まかなイメージを持っている。
- 各キャリアステージにおいて幼稚園教諭・保育士等に必要となる力に紐づけて、どの研修でどのような力について学ぶことができるのかを明確にした研修の冊子が作成できるとよい。それに基づきながら、各団体が研修を運営ができるとよい。
- 将来的には乳幼児教育保育支援センターを中心に、各団体の研修担当の代表

者が研修組織を作り、取組を進めるとよいのではないだろうか。

- 大きな話になるが、外部の研修だけではなく、園内研修や公開保育を含めて人材育成することが分かるようにできないだろうか。広島市保育連盟、私立保育協会では、地域のネットワークを作ること検討している。例えば、研修グループを近隣の園等で組んで、互いに見合うことのできる小単位の関係作りを考えている。
- 今年度の取組として公立・私立、施設種別に関わらず参加していただける公開保育を行い、その後、参加者が語り合う時間を設けた。参加者の所属している園等の環境が異なるため、多様な意見交流することができた。また、乳幼児教育保育アドバイザーに助言もいただいた。
地域のつながりを作りたいということで、今後も公開保育の取組を進めていきたいと考えている。その際、子どもの姿を通して語り合うことが一番互いの理解を深められるため、保育を見ていただくことを継続していきたい。
- その取り組みに、小学校が参加できると更によい。
- 幟町中学校区では幼保小中が連携する取組が充実していた。
文部科学省が幼保小連携について打ち出しているが、思いのほか定着していないように感じる。幼保小連携は子どもの育ちを考えると大変重要だと思うのでそのような部分の充実につながるとよい。
- 広島市の実施している就学前の育ちに関する研修は、とても良い内容であるが、小学校教諭の参加が少ないことが残念である。
- 各団体が参加対象を広げる研修を実施する際に、案内を全ての幼稚園・保育園等にスムーズに届けられるよう、例えば乳幼児教育保育支援センターを窓口にするなどして交通整理ができるとよい。
- 乳幼児教育保育支援センターが人材育成の理論的なことや指導に関することを検討しているが、今後は公立・私立、幼稚園・保育園等が垣根を越えて繋がりやすくなるよう、広島市の子ども像を掲げて取組を進めるような役割を乳幼児教育保育支援センターに担っていただきたい。市立幼稚園もこれまでの積み重ねを生かして、お役に立ちたいと考えている。
- 今後は、すぐにでも開始できる取組を、研修体系の土台作りと並行して進めていきたいという皆様からのご意見があった。
その中ですぐに出来そうなものとして、所属に関わらず幼稚園教諭・保育士等を対象とする研修の公開については、可能であれば乳幼児教育保育支援センターが担っていただけると、進めやすいのではないだろうか。